

「アセッション」

会人講師に

講師役を終えた後で歌声を披露するオペラ歌手の青木麻菜美さん



「から」という実体験を踏まえ、後輩たちに対し「進路を決めるとき誰かと一緒にから」ではなく、その高校で何をしたいか、大学進学や就職に向けて何が準備できるかを優先すべき」と助言した。

また米国ニューヨークを拠点にオペラ歌手として活動する青木麻菜美さん(26)は古川中、古川高卒は高校時代、JR古川駅で偶然、著名な音楽家の歌を聴いたことが音大へ進むきっかけになった

自身のエピソードを披露し「オペラを一度も観劇せず音楽を学び始めたのは私ぐらい。芸

術の道は厳しいけれど毎日が充実している。みんなも大きな夢を持ち、努力と挑戦を続け

て」と呼び掛けた。中新田中では初めての試みという。早坂正紀校長は「講師を質問

1カ月でまたごみの山

桜の会 清掃活動に汗流す

大崎市古川の景勝地、ラムサール条約湿地の化女沼をサクラの名所にしようと取り組んでいる市民グループ「化女沼2000本桜の会」(佐々木哲朗会長)は

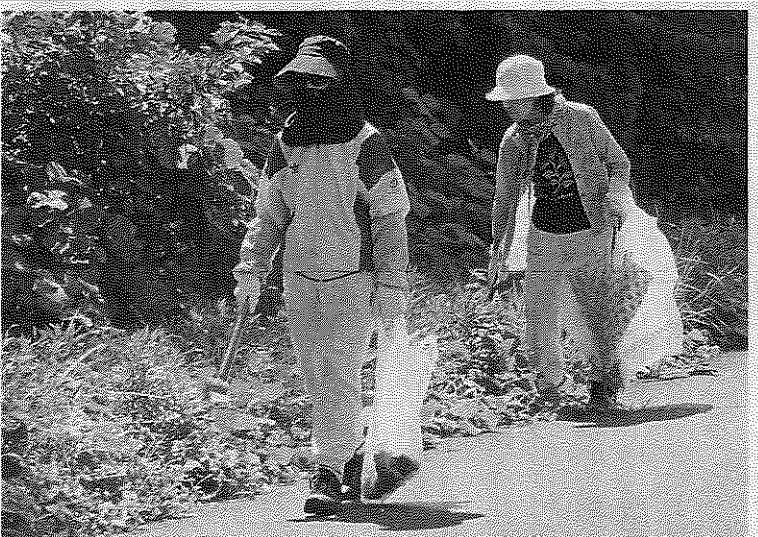
19日、沼周辺のごみ拾いを行った。先月18日に続いての活動だったが、今回も大量のごみが集まり、参加者たちは憤りを隠せない様子だった。

2000年から活動を続けている同会は、これまでに2800本余りのサクラを植樹し、春から晩秋まで定期的にサクラの管理も実施。さらに、ごみ拾いにも精を出している。この日は、桜の会のほか、県大崎地方ダム総合事務所、大崎市建設課、企業ボランティアとしてトヨタカローラ宮城、古川エヌ・ディー・ケー、佐藤工務店から合わせて29人が参加。3班に分かれて作

業を開始したが、午前中から気温がぐんぐん上昇。参加者たちは熱中症に注意しながらごみ拾いに汗を流す参加者たち

業を開始したが、午前中から気温がぐんぐん上昇。参加者たちは熱中症に注意しながらごみ拾いに汗を流した。約2時間の作業で集まったのは可燃ごみ23袋、空き缶やペットボトルなどの資源ごみ7袋。このほか、タイヤとホイール、断熱材、電気コード、ビニール傘4本などもあった。

桜の会は「断熱材と電気コードはビニール袋に入れられており、



明らかに化女沼に捨てられたごみを回収するために運び込んだと思われる。こうした不届き者に負けることなく、今後も活動を継続していきたい」と話していた。